

コード No. 28121

Anti-GFAT1 (663) Rabbit IgG Affinity Purify

容量 : 100 µg

はじめに : GFAT1 (Glutamine: fructose-6-phosphate amidotransferase 1) は、いわゆる栄養物感受性リン酸化タンパク質のひとつで、グルコース渴望状態の細胞でリン酸化されるタンパク質として同定されました。
アミノ酸やグルコース等の栄養物からのシグナル伝達経路 (Nutrient signaling pathway) として、(i) Mammalian target of rapamycin (mTOR) signaling pathway, (ii) AMP-activated protein kinase (AMPK) signaling pathway, (iii) Hexosamine signaling pathway の3つが広く知られています。GFAT1は動物細胞において、UDP-GlcNAcを産生するためにグルコースをヘキソサミン経路へ導入する際に最初に働く酵素であり、律速酵素です。
近年では、これらの経路は単にタンパク質合成や ATP 合成のためだけでなく、細胞機能の制御にも重要な役割を果たしていると考えられています。

免疫抗原 : GFAT1 の C 末部分合成ペプチド (RGYDVDFPRNLAKSVTVE)

精製方法 : 抗原ペプチドによる特異精製

包装形態 : 1 % BSA, 0.05 % NaN₃ 含有 PBS 1.0 mL に溶解したものを凍結乾燥

再生方法 : 精製水 1.0 mL 添加(この時濃度は 100 µg/mL となります)

保存方法及び : 2 ~ 8 °C 保存 5 年間安定

安定性 : 溶解後 -20 °C 保存 2 年間安定

使用目的及び : ウェスタン・ブロッティング 1~5 µg/mL にて使用可能

: 免疫沈降法 1~5 µg/test にて使用可能

特異性 : Rat, Mouse と交差

参考文献 : 1. Eguchi S, Oshiro N, Miyamoto T, Yoshino K, Okamoto S, Ono T, Kikkawa U, Yonezawa K. AMP-activated protein kinase phosphorylates glutamine : fructose-6-phosphate amidotransferase 1 at Ser243 to modulate its enzymatic activity. *Genes Cells*. 2009 Feb;14(2):179-89.